

Profile
No.2

桜梅桃李

松枝千鶴

松枝 千鶴

まつえだ ちづる

公認会計士
1995年 公認会計士試験2次試験合格
1996年 創価大学経営学部経営学科 卒業
1996年 青山監査法人東京事務所 入所
1998年 同 福岡事務所へ異動
1999年 公認会計士登録
2003年 中央青山監査法人鹿児島事務所へ異動
2006年 松枝公認会計士事務所(～現在に至る)

公認会計士をめざそうと思ったきっかけを教えてください。

私が公認会計士を目指したきっかけは、大学で履修した簿記が美しく好きだったことと1年次に出会った女性会計士の先輩が素敵だったことです。

幼いころから珠算塾に通っていたこともあり、数字が好きでした。珠算にとっても熱中していて、沢山の大会に出場していました。そのような環境で商業高校への進学や銀行への就職を目指す方が多かったため、自分も自然とその方向に興味を持ちました。はじめは「将来は銀行のお姉さんになりたい!」と考えていましたが、税理士の方が難しいよという話を聞き、「なら、税理士になってみよう!」と思い税理士を目指しました。その後「公認会計士なら、税理士登録をすれば税務もできるよ」というアドバイスをいただき、最終的に公認会計士を目指しました。

大学1年次に出会った女性会計士の先輩がきっかけで目指されたのですね。

現在、国会議員でご活躍されている竹谷とし子さんです。お人柄を一言で表すと「自分には厳しく他人にはとことん心を砕く」方です。非常に後輩思いで、親身になって沢山激励して下さり、この方のようになりたいなと思える先輩でした。こんなに素敵な方が公認会計士にいて、そう思えたから最後まで頑張れたのだと思います。

若手時代の思い出について教えてください。

自由な雰囲気監査法人で、よく働き

よく遊ぶ先輩方の背中から「疑問に思ったら納得するまで調べる」という姿勢を学びました。先輩方を見て、「人ってこんなに働くんだ」と驚愕したことを今でも鮮明に覚えています。今は、働き方改革等で以前ほど長時間勤務ではないかと思いますが、当時は皆さんワーカホリックでした。締め切りに合わせる一方で、疑問点を一つ一つ突き詰め妥協せずに調べる「スピードとクオリティの両立」は、言葉で言うほど簡単なことではありません。しかし、先輩を追いかけて日々奮闘し続けることで、プロフェッショナルとしての自信に繋がっている気がします。

公認会計士人生でのターニングポイントを教えてください。

ターニングポイントは2つ、育児と不正です。

監査法人勤務の夫の転勤に伴い、育児休業中に地縁血縁のない鹿児島へ行くことになりました。鹿児島事務所初ママ会計士として復帰しましたが、所長はじめスタッフの皆様にとっても温かくサポートしていただきました。とはいえ、ほぼワンオペ育児と残業のできない主査業務との両立は難しく、2年でバーンアウトしてしまいました。夫が県外のクライアントを担当していたことから、平日はほぼ私が18時に保育園に滑り込むという日々でした。

良く言えば責任感が強かったのかもしれませんが、自分自身の状況を早く受け止めて、もっと周りに助けを求めていればよかったですと本当に後悔しています。だからこそ、周りに同じような女性がいたらどん

ん声をかけてもらえるとうれしいです。

退職時はこの先のキャリアプランが全く見えず、専業主婦も考えました。しかし、思いもかけず事務所のOBの先生方のご紹介で、短い期間や1日だけの往査といった、育児とも完全に両立できるような、私のライフスタイルに合った仕事をさせていただくことになりました。また、自治体の包括外部監査や財務デューデリジェンス、不正調査など、会計監査に限定されない地方ならではの仕事にもご縁を頂きました。先輩方のおかげで2児の育児をしながらもキャリアを中断することなく続けられていることに感謝しています。

ある企業の不正調査の補助をさせていただいた際、不正を行った従業員の実態調査をしました。その従業員の口座記録に慈善団体への寄付支出があったことや、父として家族を思う語り口に、人間は善人と悪人がはっきり分かれているのではなく、動機や機会が重なれば不正に繋がることもあると感じました。その後も、「見るからに善人そうなこの人が?」と思うような従業員不正の案件に遭遇し、不正防止について学びたくなり、公認不正検査士資格を取得しました。ITがいくら発展しようが、基本的な内部統制の欠如による現金横領等の事件は絶えず、地方の中小企業や非営利法人も例外ではありません。魔が差して不正を犯してしまうことを防ぐために、内部統制構築の助言がライフワークだと感じています。

女性の受験生の方へ一言お願いできますでしょうか。

私が見知らぬ土地でライフイベントに翻弄されながらもキャリアを重ねられたのは、ひとえに公認会計士の資格があったからです。公認会計士の資格のおかげで「退職＝キャリア断念」ではなく、「退職＝仕事内容の調整」という柔軟な対応が出来ました。監査法人で働くのもよし、フリーランスで働くのもよし、性別による単価差をあまり感じずに働けます。働き方の選択肢が増えるのも、この資格の大きな魅力だと思います。

すね。

もうひとつの良い点は、多くの法人、業種に所属する方々との出会いを通して、自分の知見を深められることです。資格がなければお会いする機会がなかった方も多く、先日急逝された玉川先生をはじめ心より尊敬できる先輩会計士に出会うことも出来ました。一つの会社に勤めているだけではお会いする方は限られがちですが、公認会計士の仕事では、多種多様なバックグラウンドを持った方々に出会えます。また、公認会計士の名刺は、どんな方からも一定の信頼を置いていただけます。資格によって色々な方々との人脈を広げるチャンスが増えます。ライフイベントとキャリアのバランスを保つ武器の一つには考えられるのではないのでしょうか。公認会計士は女性におすすめの職業です!

最後に若手会計士へのメッセージをお願いします。

「桜梅桃李」

若くて優秀な会計士さん達へ私からメッセージなどおこましい限りですが…。

日々勉強と仕事に邁進なさっていることと思いますが、病気やご家族の事情等、努力ではどうしようもない想定外のイベントが起きることもあるかもしれません。私自身、身寄りのない鹿児島での育児-退職-開業は全く想定外でした。それでも、置かれた場所で自分らしくベストを尽くし続けられれば、ひとつひとつのご縁が重なり、当初描いたキャリアプランとは随分違う今の状況も面白いと思える日が来ると信じています。

特に一生懸命頑張っている方こそ、自分が「こうなりたい」と考えていたものから外れた時のダメージが大きいように感じます。ましてや、自分の努力不足だけではなく、ライフイベント等自分の努力の及ばない理由で叶わなかった時はなおさらです。でも、頑張ってきたこと、今頑張っていることに無駄はない。私も似たような経験をしたからこそ「色々な会計士がいたっていいじゃない」「0か100かではないよ」と伝えたいです。自分の可能性を信じ、自分のベストを尽くして「今」を楽しんで下さい。

(取材・編集)日本公認会計士準会員会
実践躬行チーム